

pidaggero

NP-31 NP-11

取扱説明書

はじめに

このたびは、ヤマハ電子キーボードをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。この楽器の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

取扱説明書について

取扱説明書は、以下のように構成されています。

■冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使い方を説明しています。ご使用前には、3~6ページの「安全上のご注意」をよくお読みください。



クイックオペレーションガイド(別紙)

ボタンや鍵盤に割り当てられた機能の操作が、一目でわかるよう、説明しています。早見表としてご利用ください。

■電子マニュアル

インターネット上のヤマハマニュアルライブラリーからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「NP-31」など)を入力して「検索」ボタンをクリックします。

ヤマハマニュアルライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>



MIDIリファレンス

「MIDIデータフォーマット」や「MIDIインプリメンテーションチャート」など、この楽器のMIDIに関する資料や、MIDI設定に関する詳細な説明が掲載されています。



MIDI入門

MIDIについての詳細や使い方を説明しています。

もくじ

付属品(お確かめください).....	2
安全上のご注意.....	3

準備編

ご使用前の準備	7
電源の準備.....	7
ヘッドフォン/外部スピーカーを使う.....	8
フットスイッチ/フットペダルを接続する.....	8
電源を入れる.....	8
オートパワーオフ機能.....	8
譜面立てを使う.....	8
各部の名前と機能	9

本編

音色を楽しむ	10
音色を選ぶ.....	10
2つの音色を重ねる(デュアル).....	11
音色デモ曲を聞く	12
ピアノデモ曲を聞く	13

メトロノームを使う	14
------------------------	-----------

各種の設定をする	16
-----------------------	-----------

音に残響を付ける(リバーブ).....	16
キー(調)を変える(トランスポーズ).....	17
音の高さの微調整(チューニング).....	17
タッチ感度を変える.....	18
オートパワーオフ機能を解除する.....	18

MIDI(ミディ)機器の接続	19
-----------------------------	-----------

MIDI(ミディ)端子と接続する.....	19
MIDI(ミディ)でできること.....	19

MIDI(ミディ)に関する設定	20
------------------------------	-----------

困ったときは	21
---------------------	-----------

付録

仕様.....	22
別売品のご紹介.....	22
索引.....	23

付属品(お確かめください)

- 保証書
- 取扱説明書(本書)
- クイックオペレーションガイド
- 電源アダプター
- 譜面立て
- ユーザー登録のご案内

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。




ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。


	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 **警告**

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

 **注意**

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの (22 ページ) を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

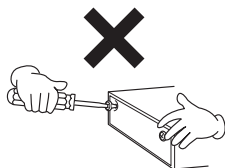
感電やショートのおそれがあります。

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



本体の上にもうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

乾電池



乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。

乾電池は一度に全部を交換してください。新しいものと古いものを一緒に使用すると、発熱、火災、液漏れの原因になります。



種類の異なる乾電池を一緒に使用しない。

アルカリとマンガンと一緒に使用したり、メーカーまたは品番の異なる電池と一緒に使用したりすると、火災、発熱、液漏れの原因になります。



乾電池を分解しない。

乾電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、化学やけどや失明のおそれがあります。



乾電池を火の中に入れてない。

破裂するおそれがあります。



使い切りタイプの乾電池は、充電しない。

充電すると液漏れや破裂の原因になります。



乾電池は子供の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。



乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。

失明や化学やけどなどのおそれがあります。万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。



乾電池はすべて+ / -の極性表示どおりに正しく入れる。

正しく入れていない場合、発熱、火災、液漏れのおそれがあります。



長時間使用しない場合や乾電池を使い切った場合は、乾電池を本体から抜いておく。

乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。(乾電池を使用している場合は、乾電池を本体から抜く。)

- ・電源コード / プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



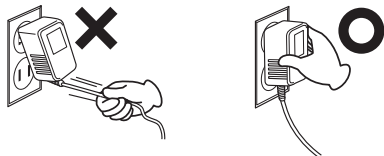
たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

禁止



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。
本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。
感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。
聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様やほかの方々がかがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

電源スイッチを切った状態（電源スイッチがスタンバイの状態）でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

使用済みの乾電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障や損傷、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 楽器をテレビやパソコン画面に近づけないでください。画面の色が変わることがあります。
- 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- 楽器の左右にはスピーカーが配置されているため、磁気があります。フロッピーディスクや磁気カードなどをそばに置かないでください。データが損失する原因になります。

お知らせ

● データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

● 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

● 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。


ご使用前の準備

電源を入れる前に必要な準備について説明します。

電源の準備

この楽器は電源として電源アダプターか乾電池をご使用になれますが、基本的には電源アダプターをご使用になることをおすすめします。

■ 家庭用コンセントから電源をとるときは

- 1 本体の電源が切れている([) (スタンバイ/オン) スイッチ隣のランプが消えている)ことを確認してください。

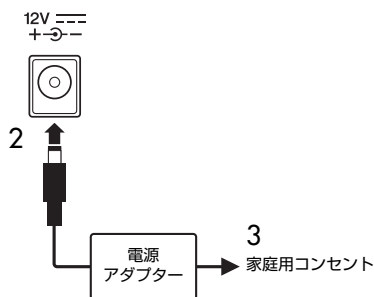
⚠ 警告

• 電源アダプターをご使用になる場合は、付属の電源アダプター (22ページ) をご使用ください。他の電源アダプターの使用は故障、発熱、発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、充分にご注意ください。

- 2 アダプターのDCプラグをリアパネルのDC IN端子に差し込みます。
- 3 アダプターのACプラグを家庭用(AC100V)コンセントに差し込みます。

⚠ 注意

• 長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。感電や火災、故障の原因になることがあります。

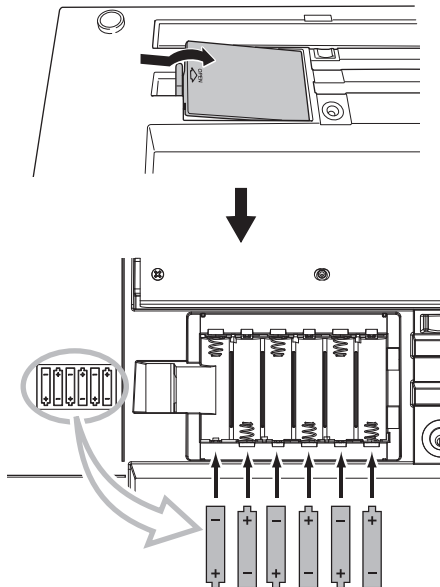


■ 乾電池を使うときは

- 1 本体を柔らかい布などの上で裏返し、電池プタをはずします。
- 2 市販の乾電池(単3乾電池)を6本入れます。乾電池はアルカリ電池をおすすめします。イラストに合わせて、向きを間違えないように入れてください。
- 3 電池プタを閉めます。

NOTE

• 乾電池が入っていて電源がオンのときは、電源アダプターを抜き差ししないでください。電源が切れます。



乾電池はお早めにお取りかえいただくことをおすすめします。電池が少なくなったら、以下のことに注意して、ただちに乾電池を交換してください。

⚠ 警告

- 乾電池はすべて+/-の極性表示どおりに正しく入れてください。正しく入れていない場合、発熱、発火、液漏れのおそれがあります。
- 乾電池は一度に全部を交換してください。
- 乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しないでください。また、種類の異なったもの(アルカリとマンガン、メーカーの異なるもの、メーカーは同じでも商品が異なるものなど)を一緒に使用しないでください。発熱、発火、液漏れの原因になります。
- 長時間使用しない場合や、乾電池を使い切った場合は、乾電池を本体から抜いてください。乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。

以下の外部機器の接続は必要に応じて、電源を入れる前に行ないます。

ヘッドフォン/外部スピーカーを使う



別売のヘッドフォン(ステレオ標準プラグ)を[PHONES/OUTPUT]端子に接続します。

[PHONES/OUTPUT]端子は外部出力端子にもなります。[PHONES/OUTPUT]端子とキーボードアンプ、ステレオ、ミキシングコンソール、テープレコーダーなど外部オーディオ機器の入力端子を接続すれば、楽器の演奏を外部機器で鳴らしたり録音したりできます。ヘッドフォンや外部オーディオ機器を接続すると、自動的に本体のスピーカーから音が出なくなります。

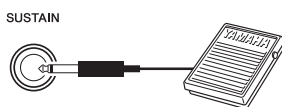
注意

- 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

注意

- 外部機器を接続する場合は、すべての機器の電源を切った状態で接続してください。その後、最初に楽器、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次に楽器の順に行なってください。感電、または機器損傷のおそれがあります。また、再生するスピーカーなどの損傷を防ぐため、外部機器の音量を最小にしてから接続してください。

フットスイッチ/フットペダルを接続する



フットスイッチやフットペダルを[SUSTAIN](サステイン)端子に接続すると、ペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。

別売のフットスイッチFC4またはFC5やフットペダルFC3を使用できます。FC3をご使用の場合はハーフペダル機能*を使用できます。

*ハーフペダル機能とは

ペダルを踏んで音が響きすぎたと感じたとき、ペダルを踏み込んだ状態から少し戻し響きを抑える(音の濁りを減らす)機能です。

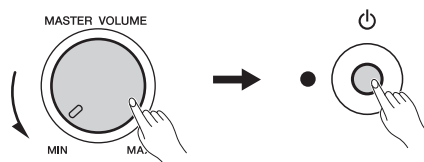
NOTE

- フットスイッチ/フットペダルの抜き差しは、電源を切った状態で行なってください。
- フットスイッチ/フットペダルを踏みながら電源を入れないでください。踏みながら電源を入れると、オン/オフが逆になります。

電源を入れる

[MASTER VOLUME](マスターボリューム)ダイヤルを左に回し、音量を最小にしておいてから、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

電源を切るときは、もう一度[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押します(1秒)。



音量は鍵盤を弾いて確かめながら、徐々に上げてください。

注意

- [⏻](スタンバイ/オン)スイッチが切れている状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。また、乾電池を使用している場合は、乾電池を本体から抜いてください。

NOTE

- 電源を切ると、パネル操作によるすべての設定は初期値にリセットされます。

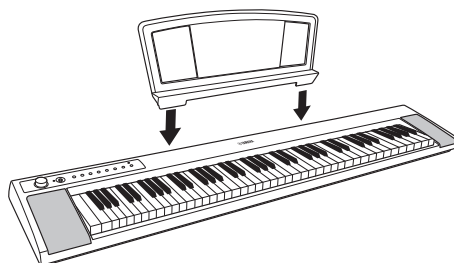
オートパワーオフ機能

この楽器は、無駄な電力消費を防ぐため、楽器を操作しない状態で30分が経過すると、自動的に電源が切れます。これをオートパワーオフ機能といいます。

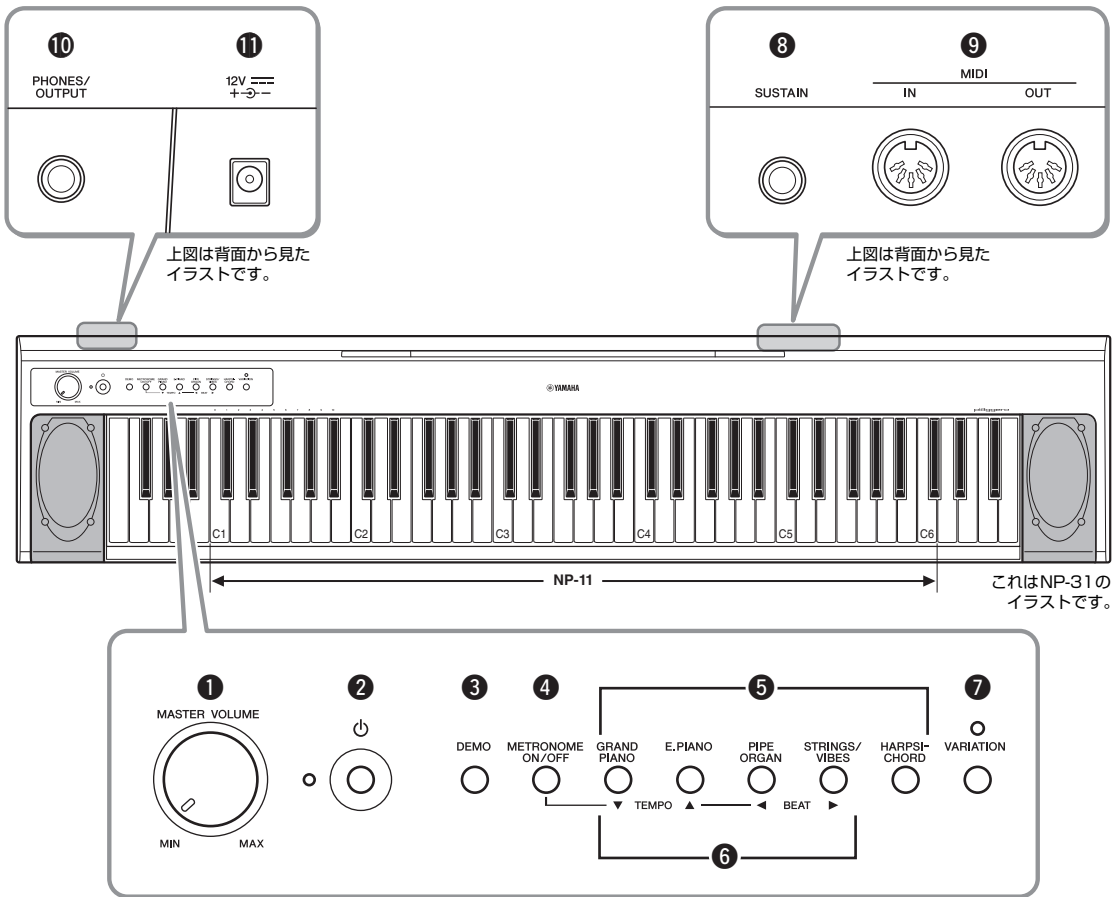
オートパワーオフ機能については、有効/無効の設定ができます。18ページをご参照ください。

譜面立てを使う

本体パネルの溝に差し込んで使用します。



各部の名前と機能

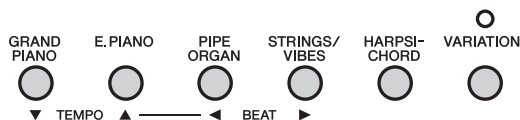


- ① ^{マスターボリューム} [MASTER VOLUME] ダイアル 8ページ
音量を調節します。
- ② [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチ 8ページ
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- ③ ^{デモ} [DEMO] ボタン 12、13ページ
音色ごとのデモ曲やピアノデモ曲を聞くことができます。
- ④ ^{メトロノーム オン/オフ} [METRONOME ON/OFF] ボタン 14ページ
メトロノームを使用して正しいテンポで練習できます。
- ⑤ 音色ボタン 10、11ページ
グランドピアノなどの音色(楽器音)を選べます。
- ⑥ ^{テンポ} TEMPO [▼][▲]、^{ビート} BEAT [◀][▶] ボタン 14ページ
[METRONOME ON/OFF] ボタンを押したまま、このボタンを押すことで、メトロノームのテンポや拍子を変更します。TEMPO ボタンについては、デモソングのテンポも調整できます。
- ⑦ ^{バリエーション} [VARIATION] ボタン 10ページ
音色ボタンとともに、音色を選ぶときに使います。
- ⑧ ^{サステイン} [SUSTAIN] 端子 8ページ
別売のフットスイッチFC5、FC4やフットペダルFC3を使用できます。
- ⑨ ^{ミディ イン アウト} MIDI [IN]、[OUT] 端子 19ページ
MIDI機器を接続するときに使います。
- ⑩ ^{フォーンズ/アウトプット} [PHONES/OUTPUT] 端子 8ページ
ヘッドフォン/外部出力端子を接続します。
- ⑪ ^{ディーシーイン} [DC IN] 端子 7ページ
付属の電源アダプターを接続します。

音色を楽しむ

音色を選ぶ

1 音色ボタンを押して、音色を選ぶ



各音色ボタンには2つの音色が割り当てられていて、[VARIATION]ボタンを押すごとに、音色が切り替わります。たとえば、[GRAND PIANO]ボタンを押した場合、[VARIATION]ランプの消灯時はグランドピアノ1が、点灯時はグランドピアノ2が選ばれていることとなります。

ボタン名	音色名	音色紹介
GRAND PIANO	グランドピアノ1	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
	VARIATION	グランドピアノ2
E.PIANO	エレクトリックピアノ1	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
	VARIATION	エレクトリックピアノ2
PIPE ORGAN	パイプオルガン1	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
	VARIATION	パイプオルガン2
STRINGS/VIBES	ストリングス	広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルに向いています。
	VARIATION	ビブラフォン
HARPSI-CHORD	ハーブシコード1	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はありません。
	VARIATION	ハーブシコード2

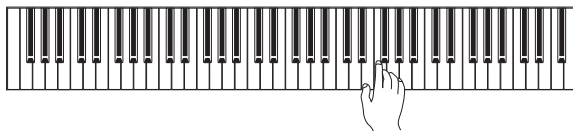
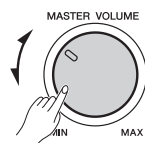
音色の特徴をつかむには音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(12ページ)

音色=楽器音

音色を選ぶと、その音色に合ったリバーブ(16ページ)が自動的に選ばれます。

2 音量を調節する

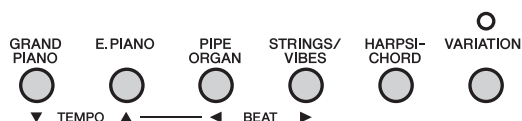
[MASTER VOLUME]ダイヤルで音量を調節しながら演奏してください。



2つの音色を重ねる(デュアル)

音色を重ねる機能をデュアルといいます。重ねて鳴らすことにより厚みのある音を作り出せます。

1 2つの音色ボタンを同時に押して、デュアルに入る



選んだ2つの音色のうち、左側のボタンに割り当てられた音色を第1音色、右側のボタンに割り当てられた音色を第2音色と呼びます。

デュアルのときのVARIATION

VARIATIONの音色を選んだ後に、2つの音色ボタンを同時に押します。どちらかの音色がVARIATIONの場合、[VARIATION]ランプが点灯します。

[VARIATION]ボタンを押すと、両音色ともVARIATIONのオン/オフが切り替わります。

1つの音色ボタンの2音色(例：ストリングスとピラフォン)ではデュアルはできません。

デュアルのときのリバーブ

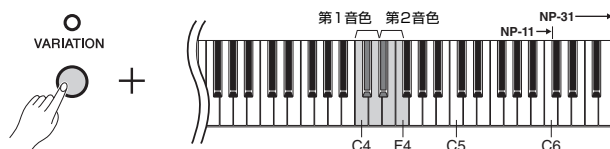
第1音色のリバーブの種類が優先されます。第1音色のリバーブがオフの時は、第2音色に設定されているリバーブの種類になります。

VARIATIONの音色の割り当てについては、「音色を選ぶ」(10ページ)をご参照ください。

2 デュアルを抜けるときは音色ボタンのどれかを押す

オクターブシフトの設定

[VARIATION]ボタンを押したまま、C4～D4のどれかを押すことにより第1音色の、D#4～F4のどれかを押すことにより第2音色のオクターブをシフトできます。



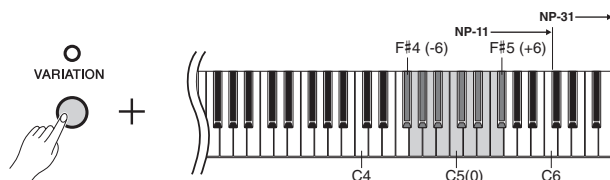
第1音色	C4	-1
	C#4	0
	D4	+1

第2音色	D#4	-1
	E4	0
	F4	+1

2音色の音量バランスの設定

[VARIATION]ボタンを押したまま、F#4～F#5(イラスト参照)のどれかを押すことにより、2音色の音量バランスを設定します。

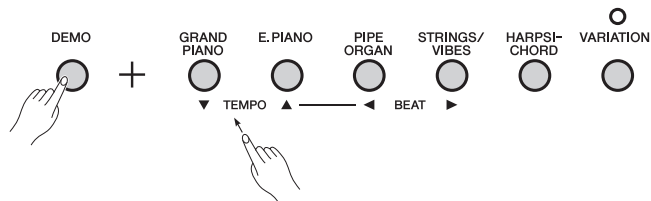
設定範囲は-6～0～+6で、設定値が0で同音量です。設定値が+6に近づくほど第1音色の音量が大きくなり、第2音色の音量は小さくなります。また設定値が-6に近づくほど第1音色の音量が小さくなり、第2音色の音量は大きくなります。



音色デモ曲を聞く

この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

- ^{デモ}**[DEMO] ボタンを押したまま、聞きたい音色のボタンを押す**
デモ曲が再生されます。続いて各音色に割り当てられたデモ曲が順番に再生されます。



音色デモ曲を切り替える

デモ曲の再生中に別の音色ボタンを押すと、そのボタンに割り当てられた音色のデモ曲に切り替わります。また、[VARIATION] ボタンを押すごとに、それぞれの音色のデモ曲に切り替わります。

●音色デモ曲

音色名	曲名	作曲者
ハーシコード1	ガボット	J.S.バッハ
ハーシコード2	インベンション第1番	J.S.バッハ

上記デモ曲は、原曲を編集/抜粋したものです。その他のデモ曲は、ヤマハのオリジナルです。
(© 2011 Yamaha Corporation)

- ^{デモ}**[DEMO] ボタンを押して、再生をストップする**



音色の特徴をつかむには「音色を選ぶ」(10ページ)をご覧ください。

音色デモ曲はMIDI送信されません。

[DEMO] ボタンのみを押した場合は、グランドピアノ1のデモ曲から再生されます。

VARIATION音色のデモ曲の再生中は、VARIATIONランプが点灯します。

再生中のデモ曲のテンポを変更できます。「テンポの設定」については14ページをご覧ください。

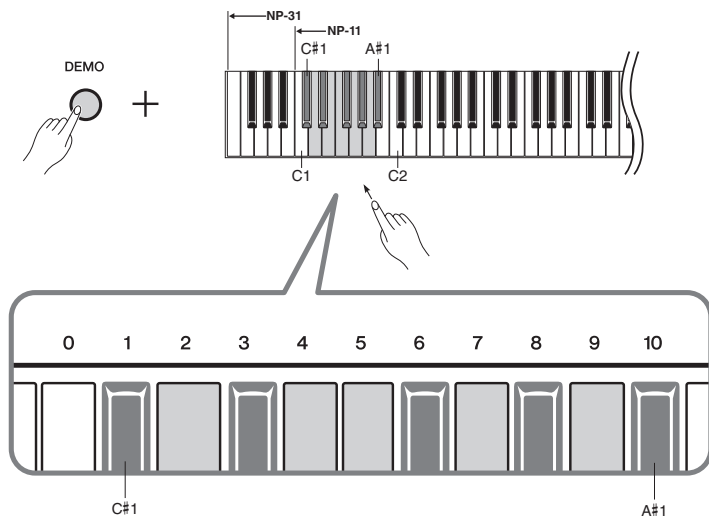
ピアノデモ曲を聞く

この楽器には、音色デモ曲のほかに10曲のピアノデモ曲が入っています。鳴らしてみましょう。

1 ^{デモ} [DEMO] ボタンを押したまま、1～10(C#1～A#1)のどれかを押し、ピアノデモ曲を選ぶ

1～10の鍵盤には10曲のピアノ曲が割り当てられています(下記参照)。

ピアノデモ曲の再生がスタートし、選んだ曲から番号順にピアノデモ曲が連続して再生されます。



●ピアノデモ曲

NP-31

No.	曲名	作曲者
1	メヌエット長調BWV.Anh.114	J.S.バッハ
2	トルコ行進曲(ピアノ ソナタ 第11番 K.331より)	W.A.モーツァルト
3	エリーゼのために	L.v.ベートーヴェン
4	小犬のワルツ	F.F.ショパン
5	トロイメライ	R.シューマン
6	人形の夢と目覚め	T.オースティン
7	アラベスク	J.F.ブルグミュラー
8	ユーモレスク	A.ドヴォルザーク
9	エンターテイナー	S.ジョプリン
10	亜麻色の髪の乙女	C.A.ドビュッシー

NP-11

No.	曲名	作曲者
1	インベンション第1番	J.S.バッハ
2	前奏曲(平均律 第1巻 第1番)	J.S.バッハ
3	かっこう	L-C.ダカン
4	トルコ行進曲(ピアノ ソナタ 第11番 K.331より)	W.A.モーツァルト
5	リトル・セレナーデ	J.ハイドン
6	エコセーズ	L.v.ベートーヴェン
7	楽興の時 第3番	F.P.シューベルト
8	ワルツ 第9番 告別	F.F.ショパン
9	楽しき農夫	R.シューマン
10	貴婦人の乗馬	J.F.ブルグミュラー

再生に合わせて、自分で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

新しい曲を選んだり、連続再生で新しい曲がスタートすると、その曲に合ったリバーブ(16ページ)が自動的に選ばれます。

再生中のピアノ曲のテンポを変更できます。「テンポの設定」については14ページをご覧ください。

ピアノデモ曲は、MIDI送信されません。

2 ^{デモ} [DEMO] ボタンを押して、再生をストップする



メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご使用ください。

1 ^{メトロノーム オン/オフ} [METRONOME ON/OFF] ボタンを押して、メトロノームを鳴らす



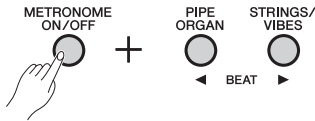
2 ^{メトロノーム オン/オフ} [METRONOME ON/OFF] ボタンを押して、メトロノームを止める



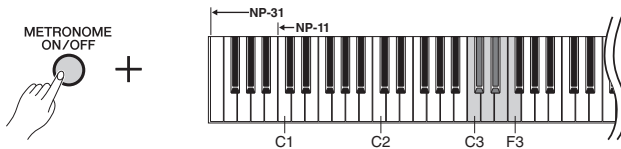
拍子の設定

[METRONOME ON/OFF] ボタンを押したまま、BEAT [◀]または[▶]ボタンを押して、0および2~6の範囲で拍子を設定します。

初期設定は、拍子なしで、すべてクリック音が鳴ります。
BEAT [◀]と[▶]ボタンを同時に押すと、初期設定の拍子なしに戻ります。

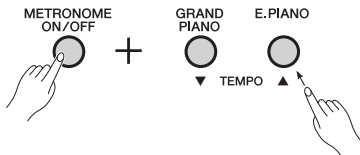


鍵盤を使って、拍子を設定することもできます。
[METRONOME ON/OFF] ボタンを押したまま、C3~F3鍵盤のどれかを押しします。



テンポの設定

[METRONOME ON/OFF] ボタンを押したまま、TEMPO [▼]または[▲]ボタンを押して、テンポを1ずつ上げ下げすることができます。



[METRONOME ON/OFF] ボタンを押したまま、TEMPO [▼]と[▲]ボタンを同時に押すとテンポを初期設定に戻すことができます。

初期設定とは
本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「初期設定」と呼んでいます。

鍵盤	拍子
C3	0
C#3	2
D3	3
D#3	4
E3	5
F3	6

設定範囲：♩=32~280

初期設定：120

また、[METRONOME ON/OFF]ボタンを押したまま、下記の鍵盤を押して、テンポを1または10ずつ上げ下げすることができます。

テンポを1ずつ上げる

[METRONOME ON/OFF]ボタンを押したまま、F#2鍵盤を押します。

テンポを1ずつ下げる

[METRONOME ON/OFF]ボタンを押したまま、E2鍵盤を押します。

テンポを10ずつ上げる

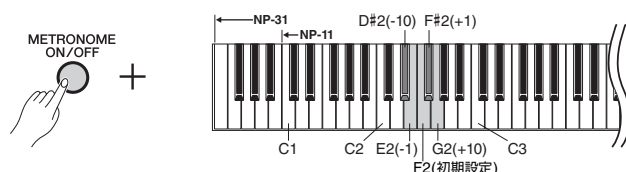
[METRONOME ON/OFF]ボタンを押したまま、G2鍵盤を押します。

テンポを10ずつ下げる

[METRONOME ON/OFF]ボタンを押したまま、D#2鍵盤を押します。

テンポを初期設定に戻す

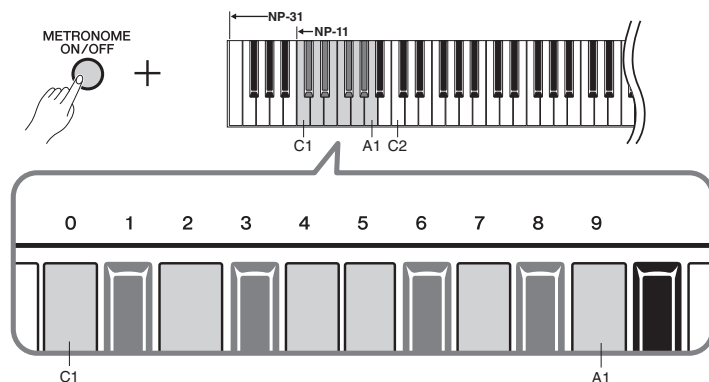
[METRONOME ON/OFF]ボタンを押したまま、F2鍵盤を押します。



テンポを数値入力する

C1～A1の鍵盤には、それぞれ0～9の数字が割り当てられています(下記参照)。

[METRONOME ON/OFF]ボタンを押したまま、0(C1)～9(A1)の鍵盤を押して、テンポを設定します。たとえば、テンポを95に設定したい場合は、[METRONOME ON/OFF]ボタンを押したまま、9(A1)、5(F1)の順番で鍵盤を押します。

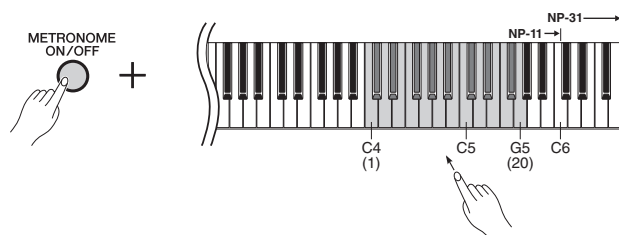


音量の設定

メトロノームの音量を設定します。

[METRONOME ON/OFF]ボタンを押したまま、C4～G5鍵盤のどれかを押して音量を設定します。

右側の鍵盤ほど音量が大きくなります。



設定範囲：C4(1)～G5(20)
初期設定：A4(10)

各種の設定をする

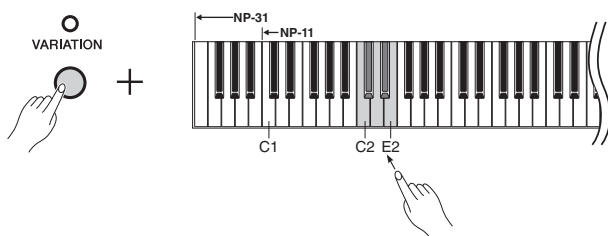
音に残響を付ける(リバーブ)

コンサートホールやライブハウスで演奏しているような残響効果を付けます。以下の4種類の中から設定できます。また、その深さ(かかり具合)を変えられます。

鍵盤	リバーブの種類	説明
C2	ルーム	部屋の中にいるような響きになります。
C#2	ホール1	小さいコンサートホールにいるような響きになります。
D2	ホール2	大きいコンサートホールにいるような響きになります。
D#2	ステージ	ステージにいるような響きになります。
E2	オフ	リバーブはかかりません。

リバーブの種類の設定

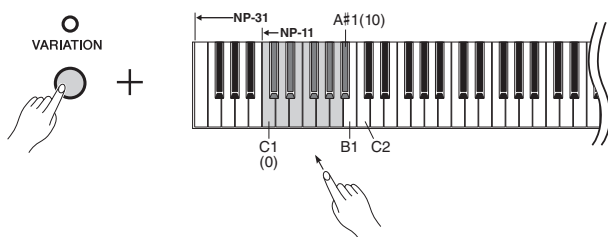
[VARIATION]ボタンを押したまま、C2～E2鍵盤のどれかを押します。



初期設定：
音色を切り替えると、その音色に最適なリバーブの種類(オフも含む)や深さが自動的に設定されます。

リバーブの深さの設定

[VARIATION]ボタンを押したまま、C1～A#1鍵盤のどれかを押します。



設定範囲：0(効果なし)～
10(深さ最大)

右側の鍵盤ほどリバーブの深さを深く設定できます。

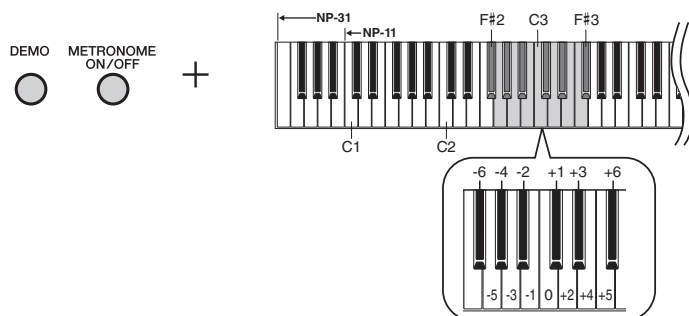
[VARIATION]ボタンを押したまま、B1鍵盤を押すと、その音色に最適なリバーブの深さ(初期設定)になります。

キー (調) を変える (トランスポーズ)

トランスポーズは、曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー (調) を変える機能です。弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー (調) を合わせるすることができます。半音単位でトランスポーズを設定できます。たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。

トランスポーズの設定

[DEMO] ボタンを押したまま、[METRONOME ON/OFF] ボタンを押し、その状態でF#2～F#3鍵盤のどれかを押します。



C3鍵盤を押すと標準の音の高さになります。F#2～B2鍵盤を押すと半音単位でキーが下がり、C#3～F#3鍵盤を押すと半音単位でキーが上がります。

トランスポーズ量
 F#2 : -6半音
 C3 : 標準の音の高さ
 F#3 : +6半音

音の高さの微調整 (チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

音の高さの設定

約1.0Hz単位で音の高さを下げる、または上げる

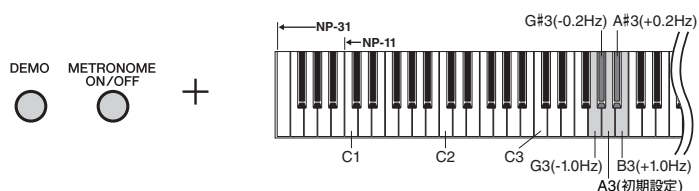
[DEMO] ボタンを押したまま、[METRONOME ON/OFF] ボタンを押し、その状態でG3(下げる)またはB3(上げる)鍵盤を押します。

約0.2Hz単位で音の高さを下げる、または上げる

[DEMO] ボタンを押したまま、[METRONOME ON/OFF] ボタンを押し、その状態でG#3(下げる)またはA#3(上げる)鍵盤を押します。

初期設定に戻す

[DEMO] ボタンを押したまま、[METRONOME ON/OFF] ボタンを押し、その状態でA3鍵盤を押します。



Hz(ヘルツ)とは音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。)

設定範囲 : 427.0~453.0Hz

初期設定 : A3=440Hz

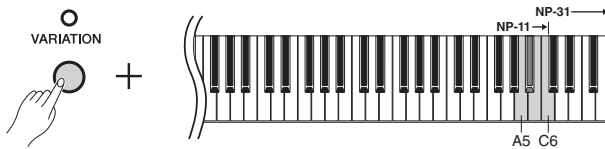
タッチ感度を変える

鍵盤を弾く強さに対して鳴る音の音量を設定します。以下の4段階に設定できます。

鍵盤	タッチ感度	説明
A5	フィクスト	タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。
A#5	ソフト	軽いタッチで大きい音を出すことができます。
B5	ミディアム	標準的なタッチです。
C6	ハード	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。

タッチ感度の設定

[VARIATION] ボタンを押したまま、A5～C6の鍵盤を押します。



鍵盤の重さ自体は変わりません。

パイプオルガン1、2、ハーブシコード1、2の音色ではタッチ感度による音の強弱はつきません。

初期設定：ミディアム(B5)

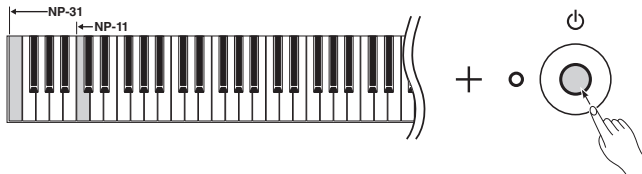
オートパワーオフ機能を解除する

無駄な電力消費を防ぐため、この楽器を操作しない状態で30分が経過すると、自動的に電源が切れます。これをオートパワーオフ機能といいます。

オートパワーオフ機能を使用したくない場合は、次の操作で設定を変更してください。

いったん楽器の電源を切ります。左端の鍵盤を押したまま、楽器の電源を入れ直すと、VARIATIONランプが3回点滅し、オートパワーオフ機能が無効になります。

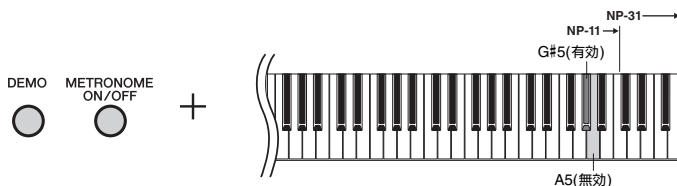
初期設定：有効



電源を切らずにオートパワーオフ機能を無効にするには、[DEMO] ボタンと [METRONOME ON/OFF] ボタンを押したまま、A5鍵盤を押します。

再度オートパワーオフ機能を有効にするには

[DEMO] ボタンを押したまま、[METRONOME ON/OFF] ボタンを押し、その状態でG#5鍵盤を押すと、オートパワーオフ機能が有効になります。



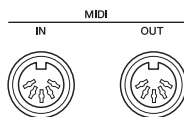
ミディ MIDI機器の接続

MIDI端子に、ほかの楽器やコンピューターを接続して、データを送受信することにより音楽の幅を広げることができます。

ミディ MIDI端子と接続する

MIDI [IN]、[OUT]端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。



MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることとなります。
この楽器で扱えるMIDIデータについては、電子マニュアル「MIDIリファレンス」4ページの「MIDIデータフォーマット」をご参照ください。

MIDIについて

MIDI (Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間や、MIDI機器とコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。MIDI機器間(MIDI機器とコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、この楽器から外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やコンピューターからこの楽器をコントロールしたりすることができます。

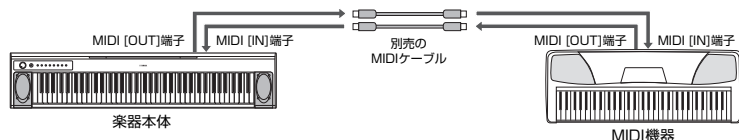
ミディ MIDIでできること

MIDI機能を使えば、他のMIDI機器との演奏情報のやりとりができます。

注記

- 外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。

他のMIDI機器と接続して演奏情報を送受信する

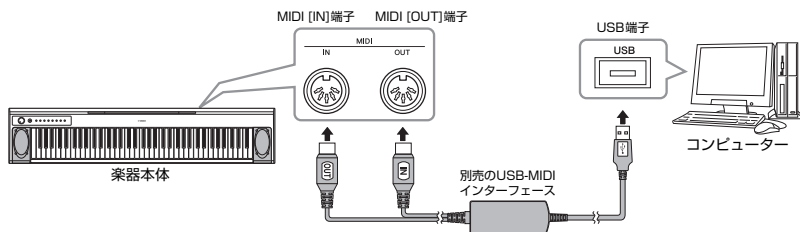


この楽器から音色デモ曲やピアノデモ曲は送信できません。

MIDI機器の接続には、専用のMIDIケーブル(別売)が必要です。楽器店などで買い求めください。

この楽器を音源として使う場合、この楽器にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

コンピューターと接続して演奏情報を送受信する



コンピューターのUSB端子と、この楽器のMIDI端子を別売のUSB-MIDIインターフェース(YAMAHA UX16など)を使用して接続します。
この楽器をコンピューターで使用するには、コンピューターにUSB-MIDIドライバーを正しくインストールする必要があります。詳しくは、USB-MIDIインターフェース機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

コンピューターと楽器間でMIDIデータを送受信するためには、コンピューター側にアプリケーションソフトが必要です。

注記

- コンピューターと接続する場合は、最初にこの楽器の電源を切り、コンピューター上のすべてのアプリケーションソフトを終了した状態でケーブルを接続し、そのあとこの楽器の電源を入れてください。

ミディ MIDIに関する設定

[DEMO]ボタンを押したまま、[METRONOME ON/OFF]ボタンを押し、その状態で下表に示した鍵盤を押すことにより、各種のMIDI設定ができます。

鍵盤	設定項目	設定値	初期設定	内容
C1～E2	MIDI送信チャンネルの設定	1～16、 オフ	チャンネル1	この楽器からMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。
C4～F5	MIDI受信チャンネルの設定	1～16、 1+2、ALL	ALL	この楽器からMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。
A#5	ローカルコントロールオン/ オフの設定	オン/オフ	オン	ローカルコントロールのオン/オフを切り替えます。 この楽器の音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをオフにします。
B5	プログラムチェンジ送受信 オン/オフの設定	オン/オフ	オン	MIDIで送信側の楽器から受信側の楽器の音色切り替えを連動させるか(オン)、させないか(オフ)を切り替えます。
C6	コントロールチェンジ送受信 オン/オフの設定	オン/オフ	オン	演奏表現など(たとえば、サステインペダルの情報)の情報をMIDI接続した外部機器または、この楽器で受信するか(オン)、させないか(オフ)を切り替えます。

鍵盤の位置や設定値については、付属の「クイックオペレーションガイド」をご覧ください。

MIDI設定の操作方法の詳細は、「MIDIリファレンス」で説明しています。

「MIDIリファレンス」は、インターネット上のヤマハマニュアルライブラリーからダウンロードできます。表紙に詳細が記載されていますのでご覧ください。

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
本体の電源が入らない。	電源アダプターが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源アダプターを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(7ページ)。
	電池が入っていません。または電池が消耗しています。	新しいアルカリ電池と交換するか電源アダプターをご使用ください。
本体から雑音が出る。	本体の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	この楽器の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。本体の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
	電池が消耗しています。	新しいアルカリ電池と交換するか電源アダプターをご使用ください。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	音量が下がっています。	[MASTER VOLUME]ダイヤルを回して音量を上げてください。
	ヘッドフォンを接続しています。	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください(20ページ)。
	電池が消耗しています。	新しいアルカリ電池と交換するか電源アダプターをご使用ください。
音がひずむ。	マンガン電池を使っていませんか？	新しいアルカリ電池と交換するか、電源アダプターを使用するか、音量を下げてください。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[SUSTAIN]端子に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを[SUSTAIN]端子に確実に差し込んでください(8ページ)。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
電源が自動的に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能が働いたためです。	オートパワーオフ機能の設定を変更してください(18ページ)。

仕様

項目		NP-31	NP-11	
サイズ/質量	寸法	幅	1,244mm	1,036mm
		高さ	105mm	105mm
		奥行	259mm	259mm
	質量	5.7kg	4.5kg	
鍵盤	鍵盤数	76鍵(E0～G6)	61鍵(C1～C6)	
	鍵盤種	ボックス型(グレードソフトタッチ)	ボックス型	
	タッチ感度	ハード/ミディアム/ソフト/フィクスト	ハード/ミディアム/ソフト/フィクスト	
パネル	言語	英語	英語	
音源/音色	音源	音源方式	AWMステレオサンプリング	AWMステレオサンプリング
	発音数	最大同時発音数	32	32
	プリセット	音色数	10	10
効果	タイプ	リバーブ	4種類	4種類
	ファンクション	デュアル	○	○
ファンクション	デモ		10音色デモ+10ピアノデモ曲	10音色デモ+10ピアノデモ曲
	全体設定	メトロノーム	○	○
		テンポ	○	○
		トランスポーズ	○	○
		チューニング	○	○
接続端子	接続端子	DC IN	12V	12V
		ヘッドフォン	ヘッドフォン端子/OUTPUT兼用	ヘッドフォン端子/OUTPUT兼用
		サステインペダル	○ (別売FC3使用時ハーフペダル対応)	○ (別売FC3使用時ハーフペダル対応)
		MIDI	IN/OUT	IN/OUT
アンプ/スピーカー	アンプ出力	6W×2	2.5W×2	
	スピーカー	楕円(12cm×6cm)×2	楕円(12cm×6cm)×2	
電源部	電源	電源アダプター：PA-150Aまたはヤマハ推奨の同等品 電池：単3乾電池(1.5V)×6[アルカリ電池を推奨]	電源アダプター：PA-3Cまたはヤマハ推奨の同等品 電池：単3乾電池(1.5V)×6[アルカリ電池を推奨]	
	電池寿命	アルカリ電池で約6時間	アルカリ電池で約15時間	
	消費電力	19W	12W	
付属品	保証書、取扱説明書(本書)、クイックオペレーションガイド、電源アダプター(PA-150Aまたはヤマハ推奨の同等品)、譜面立て、ユーザー登録のご案内		保証書、取扱説明書(本書)、クイックオペレーションガイド、電源アダプター(PA-3Cまたはヤマハ推奨の同等品)、譜面立て、ユーザー登録のご案内	

*仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

別売品のご紹介

ヘッドフォン HPE-30/HPE-150

フットペダル FC3

フットスイッチ FC4/FC5

キーボードスタンド L-2L/L-2C

USB-MIDIインターフェース UX16

USBパソコンとMIDI機器を簡単に接続できるUSB-MIDIインターフェースです。

電源アダプター PA-150Aまたはヤマハ推奨の同等品 (NP-31用)

PA-3Cまたはヤマハ推奨の同等品 (NP-11用)

ソフトケース SCC-54A(NP-31用)

SCC-55(NP-11用)

索引

B		コ	
BEAT [◀][▶]		困ったときは.....	21
(ビート)ボタン.....	9, 14	コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定.....	20
D		サ	
[DC IN]端子.....	7	サステイン.....	8
[DEMO]		シ	
(デモ)ボタン.....	9, 12, 13, 17, 18, 20	仕様.....	22
H		タ	
Hz(ヘルツ).....	17	タッチ感度.....	18
M		チ	
[MASTER VOLUME]		チューニング.....	17
(マスターボリューム)ダイヤル.....	8, 9, 10	テ	
[METRONOME ON/OFF]		デモ曲.....	12, 13
(メトロノームオン/オフ)ボタン.....	9, 14, 15, 17, 18, 20	デュアル.....	11
MIDI.....	19	電源の準備.....	7
MIDI [IN]、[OUT]		電源を入れる.....	8
(ミディイン、アウト)端子.....	19	テンポ.....	14
MIDIインプリメンテーションチャート.....	1	ト	
MIDIデータフォーマット.....	19	トランスポーズ.....	17
MIDIに関する設定.....	20	ヒ	
MIDIリファレンス.....	1, 20	ピアノデモ曲.....	13
P		拍子.....	14
[PHONES/OUTPUT]		フ	
(フォーンズ/アウトプット)端子.....	8	付属品.....	2
S		フットスイッチ.....	8, 22
[STANDBY/ON]		フットペダル.....	8, 22
(スタンバイ/オン)スイッチ.....	8	譜面立て.....	8
[SUSTAIN]		プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定.....	20
(サステイン)端子.....	8	へ	
T		ペダル.....	8
TEMPO [▼][▲]		ヘッドフォン.....	8
(テンポ)ボタン.....	9, 14	別売品のご紹介.....	22
V		メ	
[VARIATION]		メトロノーム.....	14
(バリエーション)ボタン.....	9, 10, 11, 12, 16, 18	モ	
ア		目次.....	2
安全上のご注意.....	3	リ	
イ		リバーブ.....	16
移調.....	17	ロ	
オ		ローカルコントロールオン/オフの設定.....	20
オートパワーオフ機能.....	8		
オクターブシフト.....	11		
音色.....	10		
音色デモ曲.....	12		
音色ボタン.....	10, 11, 12		
音量調節.....	10		
カ			
各部の名前と機能.....	9		
キ			
キー(調)を変える.....	17		

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

右記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

● 補修性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 持込み修理のお願い

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りの修理品お持ち込み窓口へ本機をご持参ください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話、PHS、IP電話からは TEL 053-460-4830

受付時間
FAX

月曜日～金曜日 9:00～18:00、土曜日 9:00～17:00(祝日およびセンター指定休日を除く)
053-463-1127

◆ 修理品お持ち込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45 (祝日および弊社休業日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	FAX 011-512-6109
首都圏サービスセンター	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F	FAX 03-5762-2125
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F	FAX 052-652-0043
大阪サービスセンター	〒564-0052	吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F	FAX 06-6330-5535
九州サービスステーション	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2丁目11-4	FAX 092-472-2137

● キーボードの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビダイヤル



0570-006-808

携帯電話、PHS、IP電話からは 053-460-5272

営業時間

月曜日～金曜日 10:00～18:00、土曜日 10:00～17:00(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハ株式会社

デジタル楽器事業部 マーケティング部 CL・PKグループ 〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

◆ インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。

ヤマハ株式会社のホームページ

<http://jp.yamaha.com/>

ピアノ/キーボードのホームページ

<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ

<http://www.music-eclub.com/>

U.R.G., Digital Musical Instruments Division
© 2011 Yamaha Corporation

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

103POTY*・01A0
Printed in China

WW01390